

○広川町地域公共交通計画（案）に対するパブリックコメントによる
意見及び回答について

意見①

[計画全体について]

公共交通機関の安定的かつ発展的な継続を目指すという趣旨に賛同する。

また、目標として掲げておられる「だれでも自由に目的の場所に移動することができる手段の確保」についてもぜひそうあってほしいと願う。

回答①

本計画の趣旨及び目標へのご賛同、ありがとうございます。

住民の皆さんに寄り添った公共交通を目指し、快適な生活を提供できるように、本協議会で議論してまいります。

また、喫緊の課題である「継続的な路線バスの運行」のために、まずは住民の皆さんへの公共交通の必要性を周知や利用率向上のための議論を重ねていく所存でございます。

意見②

[路線バスの運行時刻について]

現行の路線バスは広川ビーチ駅・湯浅駅に接続はしているが、駅へのバス到着時間と電車の発着時間の連絡が悪いと感じる。

例えば、バス到着から電車の到着時間まで待ち時間が半時間以上になる時間帯や、逆に約23分しかない時間帯もある。

バスから電車へ、電車からバスへという乗り継ぎ利用を考慮して、バスの運行時刻をご調整いただければ、より利便性が高くなると考える。

回答②

ご考察のとおり、鉄道と路線バスの関係は非常に親密であり、その連絡は利用者にとっては非常に重要なものでございます。そのため、鉄道の時刻表が改変された際には、路線バスの運行を変更しております。

しかしながら、学校の始業・就業時間や病院の開業時間などに併せて運行する必要があるため、全ての路線を鉄道の発着時刻に合わせるのが難しい現況であることをご理解いただきたく存じます。

意見③

[路線バス運行ルートについて]

両バス会社が済生病院まで運行しており、病院利用者にとって貴重な路線である。しかし、買い物目的での利用の面では不便さを感じる。

熊野御坊南海バスはユピア前の停車があるが、中紀バスは停車しないので、他の停留所で下車し、近隣の商業施設へ移動することになる。

徒歩での移動に困難を感じる高齢の利用者等に配慮し、買い物弱者をサポートできるルートを構築いただきたい。

回答③

ご周知のとおり、振興局や保健所、税務署などの公共施設をはじめ、病院、スーパーなど、生活に欠かせない施設が隣接の湯浅町にありますので、生活圏は広川町と湯浅町と一体になっており、本協議会においても、買い物弱者に限らず、「だれでも自由に目的の場所に移動することができる手段の確保」を目標とした議論を重要視しております。

現在、津木地区においては、本計画 P10～11 に記載しておりますとおり、まずは 2022 年 10 月から、熊野御坊南海バスの現行路線を地元スーパーを経由した路線に一部変更していくために、協議を重ねていく所存でございます。

意見④

[路線バスへの自転車の持ち込みについて]

居住地からバス停留所まで距離がある地域もある。

また、下車する停留所から最終目的地が離れているケースも想定される。

さらには、バスの運行便数が限られている為、利用時間が合わず、復路でバスを利用できないこともある。

スペースや安全面での課題はあるかと思うが、バス内に自転車等を置くスペースを確保し、バス自転車での移動を選択肢として持つことができれば尚良いのではないか。

回答④

今後、路線バス事業者と充分協議しながら、幅広い世代に愛される公共交通を目指し、検討してまいります。

意見⑤

[箕島駅方面へのシャトルバスについて]

ダイヤ改正で、時間帯によっては箕島止まり、箕島発の電車がある。

接続の電車までの待ち時間が長いので、電車の時間に合わせて、広川・湯浅方面から箕島駅方面箕島駅から湯浅・広川方面に向けてシャトルバスがあれば助かる。

箕島駅付近の病院や商業施設の利用者、通勤者、箕島高校へ通学する学生もいるので、ご検討いただきたい。

回答⑤

今後、箕島駅へのアクセス確保（箕島駅止まりとなった影響をうける自治体）を検討する必要がある関係市町とも検討を進めつつ、鉄道事業者と充分協議しながら、幅広い世代に愛される公共交通を目指してまいります。

意見⑥

[観光客の路線バス利用について]

町内のバス利用者が限られている為、利用者の増加には観光客の取り込みが重要かと思うが、観光客が多いであろう週末・祝日にバスの運行がないので、観光客にとっては不便である。

タクシーも数が限られている。

バスの運行のある平日でも、観光ルートとバスの運行ルートがマッチしない。

町内の主要な観光施設である稲むらの火の館や広村堤防、道あかりにはバスで来ることができるが、そこから広八幡宮や男山焼会館に足を伸ばそうとすると、バス運行ルートから外れており、徒歩でも相当の距離になる。

広八幡宮は梧陵翁との関わりも深いので、観光客に訪れてほしいが、稲むらの火の館など町の中心部から徒歩で移動し、さらに帰りの駅やバス停留所までも徒歩で移動となると、敬遠されるのではないか。

現行の路線バス運行ルート以外に、小回りの利く移動手段の確保が望ましい。

回答⑥

ご承知のとおり、バスや鉄道などの公共交通の運行は、利用者が減少することで、経営困難に陥ってしまい、最悪の場合は廃線になりかねません。実際、広川町の路線バスにおいても、利用者が減少したことにより、土日の運行を廃止した路線がございます。

そのためにも、本協議会の使命としましては、「公共交通機関が安定的・発展的に継続していくこと」であり、目標に向かって、公共交通だけでなく、観光、福祉、教育など様々なことに目を向けながら、運行ルートや便数、新しい移動手段などについて、住民の皆さんに利便性の高い公共交通サービスを提供できるように、利用促進しながら、あらゆる議論を行ってまいります。

意見⑦

[公共施設等へのアクセス向上]

路線バス運行ルートから離れた地域の住民にも配慮し、町内を網羅するコミュニティバス、デマンドバス、乗り合いタクシー等、便数を多めに運行してほしい。

役場やいなむらの杜などの公共施設や郵便局、金融機関などへのアクセス向上に努めていただきたい。

回答⑦

新しい公共交通機関の導入については、現行の事業者や専門家等からの意見を徴集しながら、公共交通の様々な課題に取り組みながら、地域住民の生活に寄り添った公共交通を目指していく所存でございます。また、公共交通の問題は、地域住民全体の問題であり、地域住民の利用者があってこそその「安定的・継続的な運行」が可能となりますので、引き続き地域住民の皆さんの利用をお願いしてまいります。